



# Rethink フォーラム

## 視点を変えれば、世の中は変わる。

「Rethinkフォーラム」とは、「新しい明日をともに創りあげていきたい」という全国各地の皆さまとRethink PROJECTの考えが一つになって開催する地域に根差したイベントです。



テーマ

### Rethink大分 ～おおいたの魅力をRethinkする～

「Rethink大分～おおいたの魅力をRethinkする～」(大分合同新聞社主催、RethinkPROJECT協賛)が開催されました。新型コロナウイルス感染症の混乱を経て、社会はよりよい方向へと動き出しています。今だからこそ大分の新たな魅力を掘り起こそうと、大分市長の足立信也さん、お笑い芸人のえとう窓口さん、JT大分支社長の吉田幸司さんが語り合いました。モデレーターはフリーアナウンサーの小野亜希子さん。異なる視点から大分をRethinkする時間となった鼎談の様子をお伝えします。



会場協力=レンブランドホテル大分

モデレーター

小野亜希子さん (フリーアナウンサー)

1978年、大分生まれ大分育ち。元OBS大分放送アナウンサー。結婚を機に退職後、フリーアナウンサーとしてテレビ番組MC、リポーター、ラジオパーソナリティ、イベントMCなど幅広く活躍している。



出席者

足立信也さん (大分市長)

1957年、大分市上戸次出身。医師として筑波大学附属病院や筑波メディカルセンター病院などに勤務。2004年から参議院議員を3期務めた後、23年に大分大学客員教授着任、同年4月、大分市長に就任した。



吉田幸司さん (JT大分支社 支社長)

1967年、京都府宮津市出身。中央大学卒業後、日本たばこ産業株式会社(JT)に入社。本社営業統括部、土浦第二支店、岐阜第一支店、名古屋第一支店などで勤務した後、2022年から大分支社長として勤務。



えとう窓口さん (お笑い芸人)

お笑いコンビWエンジンのツッコミ担当。1973年、大分市出身。2022年、テレビ番組の企画で家族で住む家をリフォーム。大分に拠点を移し活動中。地元放送局の番組にレギュラー出演している。



テーマ01

### 都会と田舎の二刀流

「小野」皆さんさまざまな経歴をお持ちですが、大分の素晴らしいところを、具体的に聞かせていただけますか。

「足立」なんといっても山、川、海と自然に恵まれているところ。その一方で日本の工業・製造業を代表する地域が混在しているところが面白いですね。人がゆっくりして、あくせくしていないのも魅力だと思います。

「吉田」大分市に住んで1年になります。最初は山に魅了されました。一方で街中は便利だし買い物はもろろん、体を動かしたくなったらジョギングできる場所もある。とても住みやすい街だと思っています。

「えとう」今風に言えば都会と田舎の二刀流であるところだと思います。教育、医療なども充実していて住みやすい。その一方で、スローライフも送ることができる。便利で住みやすく、ゆっくり過ごすこともできる街です。

「小野」大分に住んでいる私にとっても、新しい発見があるお言葉です。コロナ禍によって変化を感じた部分はありますか。

「足立」一つの時代の変わり目で、より地方が大事だと感じました。地方で先進的な取り組みをして、それを日本に広げたい。地方でいいのって、考えようになったんです。国が決まれないから何も動かないではなく、自分たちの身近なところで、やれるところからやるという姿勢が変わってきたというのが一番大きな変化ですね。

「えとう」僕はコロナ禍の影響で移住を判断したと言います。ここ10年ほどは関東と九州を往復する生活をしてきたんですが、それまでは漠然と大分を暮らしたいと思っていただけで、まさにrethinkしまして、「大分に戻るなら今なのかな」と決断しました。

「吉田」戻ると言えば、これから大分にもどんどん観光客が戻ってきますね。宿泊業の人手が足りないことは残念に思いますが、例えばスノーボーダー、サーferなどがいる人がいなくて、も精算ができません。そういう新しい工夫も次々に生まれてくるのではないのでしょうか。今はパソコンさえあればどこでも仕事ができますから、住む場所とかの選択肢が増えたと感じています。

「えとう」イベントやお祭りに参加することが多いんですが、「ちょっと再開できる」という、待ちに待った感を強く感じます。人と会って話せることがどれだけ大事なのかなが改めて分かりました。これまで普通だと思っていたコミュニケーションこそが、ウェルビーイング(身体的、精神的、社会的に良好な状態)をもたらすと実感しています。



大分空港でソウル便復活=6月23日付大分合同新聞

テーマ02

### 長期滞在型の街へ

「小野」新型コロナウイルスは感染症法上の位置付けが変わり、社会が大きく動き出した実感がありませんか。

「足立」2020年からの3年間、全国で約7万人以上の方が新型コロナウイルス感染症で亡くなったのですが、新型コロナウイルス感染症を除去死亡者数は20年と22年を比較すると10万人以上増えています。その要因の多くは、自宅でじっとして活動量が減ったことによる誤嚥性肺炎や老衰だと考えられます。大分の健康寿命が長いのは、集まりへの参加が非常に多かったからですね。いろんな集まりに出掛けていくことは、体にとって良いことなのだと感じています。一方でオンライン診療やオンライン服薬指導などが進み、よい面もあったと思います。

「えとう」人と会うとか飲みに行くことが一切なくなった時は本当に寂しい日々でした。これまでだったら「ちょっと面倒だな」と思っていた集まりも、実は大切だった。まさにrethinkですね。

「小野」大分市は、ホーバークラフトの就航や西部海岸地区の道の駅のうらら建設などの豊富なトピックスもありますが、これからどうあるべきかと考えてほしいです。

「足立」ポストコロナについては、これで終わったんだと思わないよう意識しておくことは大事だと思います。私は筑波や東京でも暮らしましたが、大分は他の都市に比べると交通のアクセスが悪いことは否めません。しかしそれを逆手に取る戦略もあるのではないのでしょうか。2019年のラグビーワールドカップ(W杯)の際、長く泊まった方は44連泊されたと言っています。大分はいろんな魅力がありますから、短期滞在ではなく長期滞在型の街を目指すべきだと思います。ゆとり旅するという方向性がよいのではと考えています。

「吉田」僕も単身赴任で、ある意味、長期滞在者になるんですが、確かに1泊2泊で大分の魅力は分からないかもしれませんが、問題なのは大分の人が魅力に気づいていないことではないでしょうか。

「えとう」そうですね。地元の方が「大分は何もない」と言つのが残念です。現状、足りないのは宣伝力、広告力ではないのでしょうか。

「足立」来年度は福岡・大分デスティネーションキャンペーン、北部九州インターハイ、全国豊かな海づくり大会とイベントが立て続けにあり、全国から多くの方が訪れます。その時に皆さんに分かってもらうことが大切かなと考えています。

「小野」市長がよく言われている「one team OITA(ワンチームおおいた)」という言葉、僕もすごく好きです。W杯の市民の熱量はすごかったですよね。あれができれば、来年のデスティネーションキャンペーンも一番になれると思います。今こそワンチームおおいたで魅力を発信したいですね。



田ノ浦ビーチから高崎山へと続く別府湾岸



建設が進む道の駅のうらら

テーマ03

### 多様で豊かな地域を

「小野」たくさんの方が大分に来られることで、迎え入れる側としてはいつでも街をきれいにしておきたいと思うんですが、JTでは街をきれいにするさまざまな取り組みを行っています。

「吉田」JTでは通称「ひろ街」。ひろえば街が好きになる運動を長年続けています。県内でも毎年行っている活動です。ひろうることができる人はゴミを捨てないですね。そういう人を一人一人増やしたいと思っています。大分市は駅前の通りにゴミ箱が設置されていますが、そんな街ってないんです。行政の仕組みとしてされているのはすごいことです。そのゴミ箱が経年劣化で少し汚れているので、弊社で寄贈したいと動いているところです。

「小野」地域をつくるのは人ですから、多様な価値観を認め合い、自分らしく、そして心豊かに暮らすために、一人一人ができることがありそうですね。目指す未来像について聞かせてください。

「えとう」今こそワンチームおおいたで、大分愛を持ったみんなが一つになって、ここ大分を楽しく暮らし、魅力を発信することが大切だと思います。ウェルビーイングのためには、「心」の部分の大事です。温泉や観光ももちろんですが、大分市はみんなが笑顔でもてなす心豊かだねって言われるようになったらいいかな。人が充実した街になるように、まずは自分が変わっていきたくです。

「足立」私は政策を五つの柱にまとめて表現しています。ひとつを守る、ひとつを育む、ひとつを支える、ひとつを豊かに、ひとつを元気に。目指す姿はそこに集約されています。そのためにも、多様性ということが極めて大事です。他人の権利を傷つけない限り自分の権利は守られる。多様性を守れば自分も尊重される、ということ。人口減少社会で一人一人の役割が大きくなる中、それぞれが考えて自分たちで結論を出していくことが大切です。結果的に、それが「one team OITA(ワンチームおおいた)」につながるのだと思います。

「吉田」多様性のお話、本当にそうですね。多数決で決めるということが大切じゃないかと思うんです。それぞれ、みんなが幸せを感じる街にしていきたいです。例えば、観光地や駅前の道路が本当に車いすやベビーカー、自転車の人も人への思いやりをもったものになっているか。そういう少数派の人のことを考えた街づくりを行っていくべきで、きつと素敵な大分になっていくと思います。

「小野」ワンチームになって、これから素晴らしい大分になるように、私も自分もrethinkして日々を過ごしていきたいと思っています。皆さんありがとうございます。

